Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

10月29日：

ITUとマイクロソフトがICT開発を追跡するオンライン・プラットフォームを開始

ITU and Microsoft launch online platform to track ICT development

コネクト・アフリカ・サミットでICTインフラ支援と人材育成を約束

Support for ICT infrastructure and capacity building pledged at Connect Africa Summit

（出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/32.html）

2007年10月29日、コネクト・アメリカ・サミットの初日に、アフリカにおけるWSISの目標実施を追跡し加速させるバーチャルな地球規模のオンライン・プラットフォームITU Global Viewが、運用を開始した。安全で、包括的で、相互運用可能な情報社会を構築するため、ITUとマイクロソフトがMemorandum of Understanding（MoU）に署名し、アフリカに関係するアプリケーションやサービスのプログラムを支援するとともに能力開発と人材育成プログラムをサポートすることに合意した。 さらに、両者は、サイバーセキュリティについても協力し、開発途上国の規制機関をサポートする。

10月30日：

ITUとAfDBがアフリカの首都・主要都市を相互接続

ITU and AfDB join forces to Interconnect African Capitals and Major Cities

Connect Africa Summitでの主要目標達成で協力

Collaboration to achieve Key Connect Africa Summit Goals

（出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/33.html）

2007年10月30日、ルワンダのKigaliで開かれていたコネクト・アフリカ・サミットで、ITUのトゥーレ事務総局長とアフリカ開発銀行（AfDB）のカベルカ総裁は、2012年までに両者が協力して、アフリカ各国の首都と主要都市を広帯域のICTで相互接続していくと発表した。ITUとAfDBは、アフリカ主要都市間で、同等レベルの広帯域ICTインフラを構築するため、資金や協力者を積極的に集めるとともに、それらを有機的に結びつけるためのthe African Infrastructure Consortiumを組織する。そしてAfDBがその事務局となり、必要な技術的協力はITUがその傘下のセクターメンバーや主要企業の協力を得て行うとともに、実施に向けてのフィージビリティ・スタディーも行うとしている。 また、ITUとAfDBはICTインフラへの投資を促進するため、政策や規制の面でも支援するとしている。

10月31日：

550億米ドルをコネクト・アフリカにコミット

USD 55 billion committed to connect Africa

コネクト・アフリカ・サミットで産業界は積極的にICT投資へ

Industry drives ICT investment at Connect Africa Summit

（出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/34.html）

コネクト・アフリカ・サミットは、550億米ドルを上回る投資をコミットしICT産業界がイニシャティブを取ることなどを討議して、30日閉会した。このサミットには6人の国家元首を含む1000人以上が参加した。 サミットは、2015年までにより広義のMillennium Development Goals（MDGs）の達成を可能にするようICT接続目標を2012年に前倒しした。 アフリカでモバイル革命を確かなものにするため、GSMのモバイルオペレーター達は2012年までの5年間でアフリカ大陸のネットワークを拡充アップグレードするため500億米ドルの投資を発表した。 これにより、アフリカの携帯電話人口カバー率は90パーセント以上となる。

②11月13日：

多言語インターネットに向けて前進

Steps taken for multilingual Internet

インターネット・ガバナンス・フォーラムでITU, UNESCO, ICANNが足並みをそろえる

ITU, UNESCO and ICANN collaborate at Internet Governance Forum

（出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/35.html）

2007年11月12～15日に、ブラジル・リオデジャネイロ市で開かれていた第2回インターネット・ガバナンス・フォーラム（IGF）の期間中、13日に、ITUとUNESCO、ICANNは、多言語で利用可能なサイバースペースの実現に向けた世界標準作りの一環として、ワークショップを共催した。誰でもが参加できる情報社会を構築していくには、インターネットの利用とローカル・コンテンツの活用が不可欠となるが、利用するインターネットの言語としては、現在のローマ字の使用を強いるのではなく、世界に数百あると言われる多様な言語でも使えるようにすることが必要である。ITUのトゥーレ事務総局長は、「このワークショップは、言葉の壁を越えて、インターネット利用を普及させていくためには、UNESCOやWIPO、ICANNなど関連する機関が互いに協力していかなければならないことを確認する重要な機会である」と述べている。